

ノコクズはこのように使われている

敷わら・堆肥

ノコクズ・樹皮といえば、敷わらや堆肥を連想するくらい、これらの資材は畜産や農園芸の分野で大活躍しています。

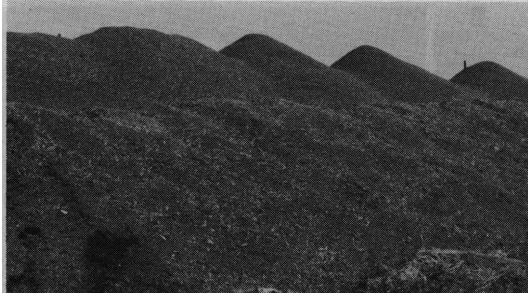
農業で大いに利用されている

かつて金をかけて処分しなければならなかった邪魔者を現在の大量消費に結びつけ、資源として再評価させた功労者はなんといっても敷わら、堆肥などの農業利用です。石油ショック以来、エネルギー利用に消費量第1位をうばわれたものの、製材工場やチップ工場で副生する廃材の3割がこの分野で利用されているといえますから、乾物重量にしてざっと20万トン、実容積で40万 m^3 が流通していることとなります。この量は堆肥に換算すると約50万トン、市販堆肥が1トンあたり1~2.5万円で取引されていますから、なんと50~125億の価値を生み出していることになるのです。



ノコクズは不足している

ノコクズは樹皮のように粉碎やふるい分けなどの特別な処理がいらないので、とくに好まれています。しかしいま北海道でのこくずを手に入れるのは至難のわざです。もともと副生量が少ないうえに、キノコ栽培やオガライトなど他の用途にも引っ張りだこだからです。道北、道東の畜産の盛んな地域では、樹皮でさえも極度に不足して問題になっています。



快適なベット

敷わらは家畜にとってふんわりとした快適なベットです。そして歩行のさいにはコンクリートの床からくるショックをやわらげてくれます。木質物は多孔質で、わら類にくらべて素早く、しかも沢山のふん尿を吸収できるので、敷わらにもってこいの材料です。



悪臭が消えた

最近の豚舎や牛舎でまず気がつくことは、昔のように強烈で、いかにも不潔なあの悪臭が消えてしまったことです。木質敷わらは空気の流通がよいので、ふん尿は好気分解して悪臭物質を発生しないのです。また、好気分解によって病原菌の生育を抑制するという意見もありますし、発酵熱によって厳冬期の家畜のエネルギー消費がおさえられ、飼料代を10%以上節約できた例も耳にしました。畜舎を清潔に、快適に保つことは、家畜にとってもそこで働く人にとっても大変重要なことなのです。

敷わらの再利用………堆肥

敷わらがふん尿で汚れ、水分が60～70%くらいになると新しい敷わらと交換します。使い終わった敷わらは、適切な管理をしながら6カ月から1年間堆積発酵させると立派な堆肥となります。この堆肥は、牧場の採草地にまいたり、近隣の農家に引き取られ、苗床の培養土やハウスの床土の材料として、あるいは畑地や水田の地力維持等に欠くことのできない資材として活用されています。

(林産試験場 高橋 弘行)